

(1)学校経営の改革方針における今年度の重点取組についての評価結果

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
組織的な教育力の向上	<p>全職員が関わり、地域との交流を通して生徒が主体的に学ぶ3つの取組のさらなる充実を図る。</p> <p>① 1学年：人権FW 人権FWの取組をさらに深めるため人権教育推進協議会を立ち上げる。</p> <p>② 2学年：インターンシップ 事後指導として、インターンシップ発表会のための予選会を実施する。</p> <p>③ 3学年：課題研究 課題研究を通して、今年度三重県で開催させる全国産業教育フェアへ積極的な参加、協力をする。生徒実行委員会広報部の仕事への協力体制を整える。</p>	<p>① 津商業高校人権教育推進協議会を県教委、三人教、社協、PTA、卒業生、教員を構成メンバーとして、6月、11月、2月に実施し、それぞれの立場から助言、協力をいただいた。</p> <p>② 1,2年生対象の発表会に向けて、2年生全員が参加しつつ短時間で実施可能な方法を工夫し予選会を実施した。</p> <p>③ 生徒実行委員会副委員長の選出、生徒広報記録部へ20名派遣。大会前日準備、大会当日を含めて述べ80名の生徒が参加した。また、来年度以降の課題研究の内容と評価方法の見直し検討し始めた。今後の検証のため今年度3年生に対しアンケートを実施した。</p>	<p>① 例年以上に多くの事業所等の協力を得、すべての生徒が校外でのFWを実施したことは大きな成果である。発表会の見学者も激増し多くの助言が得られた。生徒発表に改善の余地があり、その指導が課題である。</p> <p>④ 2年生にとっては一人一人全員がインターンシップの目的や成果を確認する機会を得ることができ、その効果が高まった。1年生にはより良い発表が聞け、事前学習としても改善された。進学希望者向けのインターンシップと事前指導を来年度改善する。</p> <p>⑤ ・「匠」事業の継続と発展。・課題研究の一部に位置づけ津商バザーの復活・地域の企業力も借りビッグデータを活用した情報システム科の特色化等、来年度の取組として実現したい。</p>
授業改善	<p>① 既存の保護者等公開授業週間をはじめ、教員同士による授業の公開と見学を行い授業改善に取り組む。</p> <p>② 高大接続についての情報収集と校内への還元を行う。</p>	<p>① 授業公開を実施。同時に教員の互見授業も行い、アンケート等による意見交換をにより授業改善に努めた。</p> <p>② 高大接続に関する情報を収集、教員への提供を行い、教育課程の見直し開始につなげた。</p>	<p>① 保護者の参加人数が少ないため、来年度は授業公開日を週末に行う。互見授業によるアンケートはよい気付きをもたらしているため、今後は実施回数を増やしていく。</p> <p>② 引き続き情報収集を行いながら教育課程を検討していく。</p>
勤務時間縮減	<p>① 職員会議等の会議において資料等の配布方法や提案方法などを見直すことで、時間の短縮または回数削減をはかる。</p> <p>② 津商ホームページを更新がしやすい構造に変え、更新にかかる時間の短縮をめざす。</p>	<p>① 職員会議では、今年度より議題の時間設定を行い、時間の削減を図ることができた。また、PTA役員会においては、議題の精選と前倒し等を行い2回分削減することができた。</p> <p>② 津商ホームページのトップページを変更し更新しやすくした。</p>	<p>① さらなる効率化を目指して掲示板やデスクネットの活用も推進していきたい。</p> <p>② 更新作業の時間短縮と見やすいトップページが実現した。夏休み中の甲子園出場時、様々な連絡に役に立った。今後、部活動のページも更新しやすく見やすいページにするため、統一したフォームにしたい。</p>

